

拝二小集団行動スタンダード

1. 集団行動とは…

集団行動とは、インターネット上の Wikipedia では、下記のようにある。

各種の組織・集団が、同一の目標の下に、規律のある行動を取ることを指す。（中略）気をつけの姿勢、前へ倣えなどから始まり、人員点呼等もあり集団を目的地にまで円滑にすすめるには必要だとされる。

Wikipedia 参照

つまり、学校・学年・学級という組織を動かすことにおいて、基礎・基本となる動きであり、必要不可欠な要素である。

近年、教育現場では、戦前教育の反省より、集団に倣うこと以上に集団の中で個を活かす教育が主流となってきた。その中で、動作をきちんとそろえた行進は、軍隊をイメージするなどの理由により、現在では、あまり見られなくなってきた。しかし、これは個を活かす教育に対する大きな誤解だと考える。そもそも個が活きるのは、適した集団の中であるという前提条件が、ないがしろにされている気がする。むしろ、集団行動では、異なる体格や歩幅の個が、共通の目的に向かって自分自身で歩幅を調整している。これこそ、集団のあるべき姿ではないだろうか。共通の目的をもった異なる個が、異なる課題（アプローチ）で達成を試みる。まさに、現代に求められている人材像とリンクしている。集団をよりよいものにしようと、自分自身を振り返り、課題を見つけ解決できる児童像を目指し、集団行動の指導にあたっていきたいと思う。

2. 学習指導要領の位置付け

学習指導要領では、小学校学習指導要領解説 体育編では、集団行動について下記のように位置付けられている。

キ 集団行動

各教科、特別活動等の教育活動及び日常の緊急時等では、集団が一つの単位となって、秩序正しく、能率的に、安全に行動することが求められることが多い。したがって、児童がそれぞれの活動の場にふさわしい集団としての行動様式を身に付けておくことが望まれる。

体育の授業における運動領域の学習では、学級単位あるいは学級をいくつかに分けた小集団で行われることが多く、そこでの活動を円滑に行うには、児童が学級単位あるいは小集団で、秩序正しく、能率的に行動するために必要な基本的なものを身に付けておくことが大切である。

（小学校指導要領解説体育より引用）

特筆すべきは、集団行動が体育の学習指導要領解説に明記されていることである。運動会のねらいの一つが、「日頃の体育の学習の成果を発表する」である以上、運動会で行進をはじめとする集団行動を保護者や地域の方々に見ていただくことはふさわしいものであると考え、今年度の運動会では、行進による入退場の実施を企画した。

3. 集団行動の教育的効果

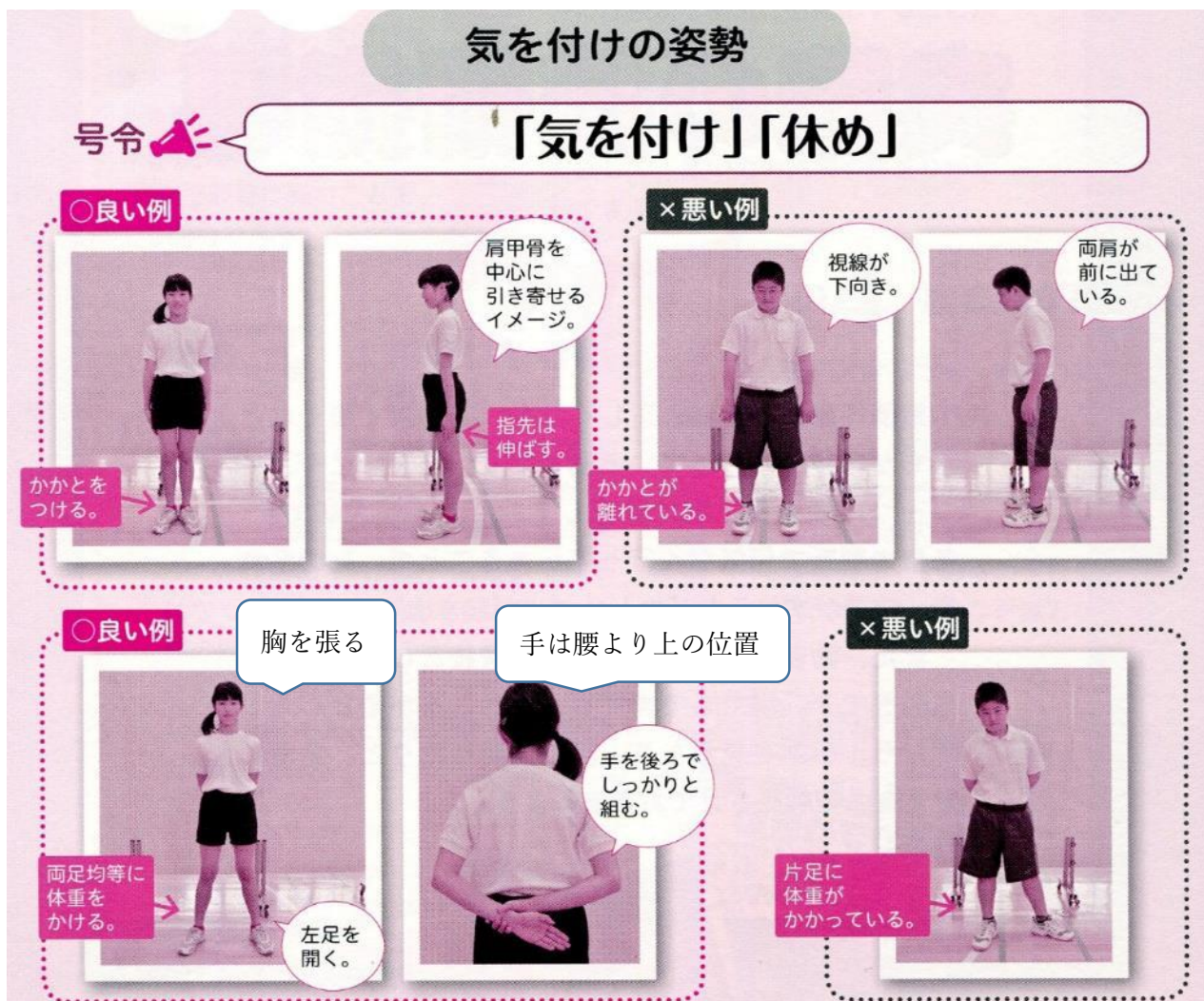
集団行動を指導することで、以下の3点の教育的効果が得られると予測される。

- ①体育の授業では、児童が集団行動の基本的な動きを身に付けて、その意味を理解して積極的に行動することで、体育の学習を効率的かつ安全にできるようになります。
- ②児童が基本の動きを完全に身に付けることができると、体育以外の教育活動でも、集団の動きが円滑に行われ、教育効果が向上するようになります。生活指導の面でも効果が期待されます。
- ③一度きちんと指導された児童は、声が大きくなる、姿勢がよくなる、集中力が続くようになる等のよい変化が見られ、儀式的行事の規律が守られるようになります。

4. 技術指導

4-①. 姿勢

集団行動の基本となる姿勢です。視線・方の位置・かかと・つま先とチェックできる場所は数多くあります。この後の方向転換や行進の技術にもつながります。しっかりと意識させる必要があります。



Point!

演技を引き締めるのは「手の指先」です。繰り返し意識させましょう。

手は腰より上の位置で組みましょう。

4-②. 方向転換

左右前後への方向転換を行います。列の増減や行進時の方向転換を行う際の基礎的な要素になります。集団として「合わせる」意識付けへの第一歩となります。特に、足のかかととつま先の動きを丁寧に指導します。



Point!

基準となる右足のかかとは動かさない。左足を下げて、右のかかとを中心に回ります。



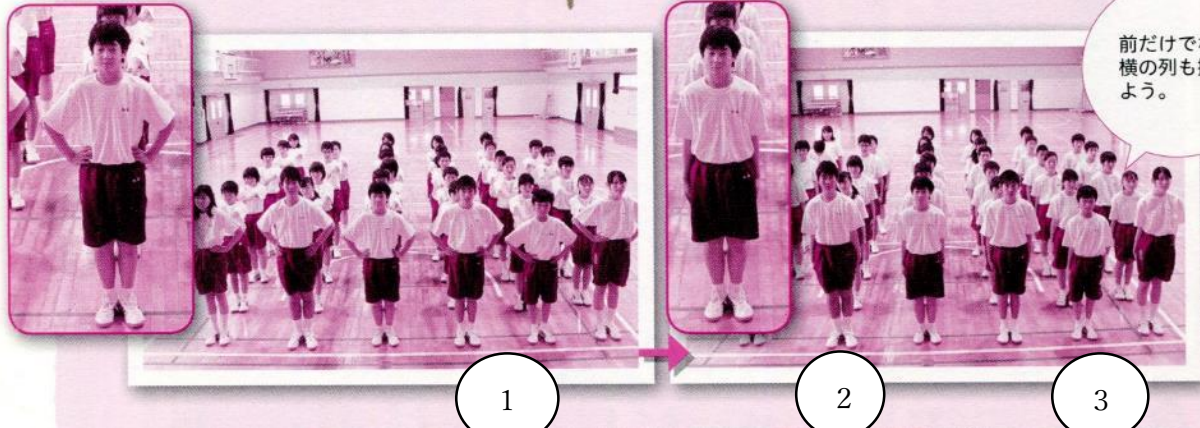
Point!

手の指先を体につけたまま全ての動作を行うと、きれいに見せられます。

4-③. 整列・集合・拡散

運動会では、全体のインパクトを考えると外せない技術になります。また、通常の体育の授業でも、取り入れることにより授業規律を保つのに有効です。号令から何秒で完成させるかを決めておきます。

号令  **「前へ ならえ」 「なおいれ」**



1 2 3

号令  **「〇〇(名前)基準 体操の隊形に 開け」**



1 2 3

「〇〇基準」の〇〇には基準になる児童の名前が入る。

ぼくが基準。

「体操の隊形に」で
・先頭の児童のみひらく。
・その他の児童は体の向きのみ移動する方向に変える。

「開け」で全員移動

内側の子が広がらないように注意。

この列が行き過ぎないように注意！

Point!

「前へならえ」における先頭の姿勢について説明が必要です。横の列との間隔をとるために行う動作であり、しっかりと腰に手をあて、肘を外側に開かせてください。

4-④. 行進

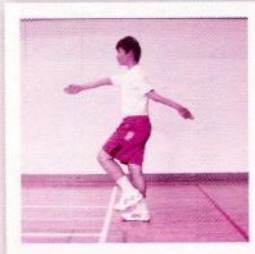
姿勢・方向転換などの基礎技術がある程度になったところで、集団行動の花形「行進」の練習に入ります。今までの技術と違い、教えてすぐできるという性質のものではありません。時間をかけ何度も反復練習することが必要になります。

号令 

「その場足踏み 用意 はじめ」



手を大きく上げる。
横から見たときに、
一瞬「前へならえ」
状態になるように
する。



指先まで神経を集中させる。



腕を後ろにも大きく振るよう指導する。

Point!

その場足踏みで歩く姿勢と止まる姿勢について、反復練習をします。





「止まれ」を聞いてから止まるのではなく、7カウントめに止まることを指導しておきます。

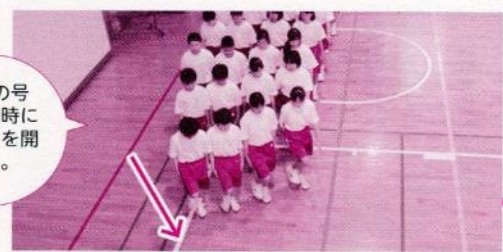
リズム	1	2	3	4	5	6	7
足	左	右	左	右	左	右	左
号令	ぜ	んたー		い	止まれ		

号令 

「先頭 左(右)」

行進しながら 方向転換：上から見た形

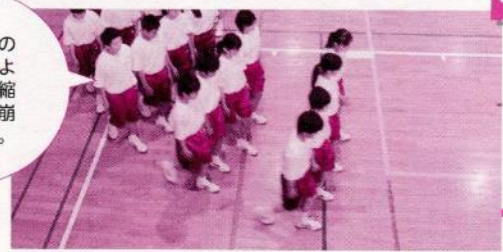
「左」の号令と同時にターンを開始する。



外側の列から、少し斜めに入るように意識する。

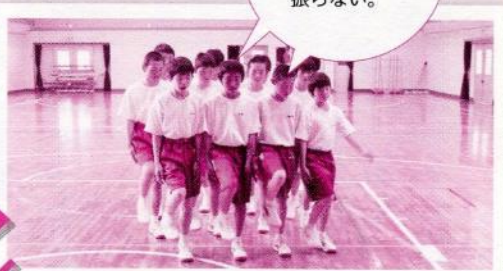


内側の人の方に寄るように少し縮むと列が崩れにくい。



行進しながら 方向転換：正面から見た形

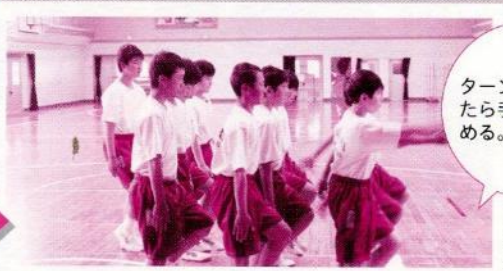
真ん中の二人はターンしている間、手を振らない。



内側の児童はほぼ「その場足踏み」状態で外側の児童が回り終えるまで待つ。



ターンし終わったら手を振り始める。



Point!

ターンしている間、手を振っているのは内側の児童の左手と外側の児童の右手になります。

号令

「左(右)向け前へ すすめ」

全体が一度に方向転換する。

左への方向変換

右への方向変換

すすめの合図のタイミングは、左折の時右足が着地で「すすめ」を授ける。



リズム1



2

3のリズムで一斉に方向(上半身)を変える。最初は教師が声を出してタイミングを取るとよい。



3



4

Point!

足の動きを覚えたら、上体の動きを意識させます。リズム3で全員が一斉に上体をターンさせると、見栄えがよくなります。

5. あとがき

拝二小の児童は全体的に集団行動を苦手としている。これは、校外学習での集合・歩行や、普段の朝会の様子からも分かることである。そのため、今年度の運動会では、集団行動に重点を置いて、よりよい集団作りを目指す。そのために運動会の入場は、約1周の行進をし、それに向けて2学期以降は、全校朝会は屋外で行い、整列・行進を日常的に指導していく予定である。